

1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指し自信と誇りをもって教える学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1＜学校の現状＞

学校や学年の行事をほぼ通常の形式で開催し、生徒が熱心に取り組むことができた。学校全体が穏やかな雰囲気の中で生徒は学習やスポーツに落ち着いて取り組んでいる。

生徒アンケート結果「学校が楽しい」と回答した生徒が94%、保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」に92%が肯定的回答であった。

2＜成果と課題＞

- ・ICT委員会が中心となり、授業や校務に活かすことができる研修を3回実施した。タブレットを生徒に活用させて足立スタンダードの授業を展開できる教員が増えてきた。さらに全教科で生徒が考えたり調べたり学びあったりできる授業ができるようにしていきたい。
- ・全学年でAIドリルの活用が進んだ。授業とリンクして日常的に家庭学習で使うことで学力の定着につなげていく。
- ・朝読書が定着してきたが、図書館の活用率向上にはまだ繋がっていない。生徒が積極的に図書館を活用するようにさらに工夫をしていく。

3＜健全育成＞

生徒のアンケート「六月中での生活は楽しい」と回答している生徒は94%、保護者アンケート「いじめのない生活を送っている」94%と高い数値であった。年間30日以上欠席生徒が14.3%ほどいる。しかし昨年度7月から不登校対策のスマール・ステッフルーム（SSR）のモデル校に指定され、試行錯誤ではあるが登校のハードルを下げるができていく。今後は対象生徒の将来につながるキャリア教育の在り方を検討していく。

学校運営協議会設置校として地域の教育力を生かした教育活動を小学校との連携も図りながら継続、発展させていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の推進		○	○	○	
3	心の教育の充実	○	○	○	○	

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
主体的・対話的で深い学びの実現と学力の向上と定着		到達度確認テスト 正答率学校全体 60%		到達度確認テスト 2/6 実施 50.7%		授業改善に取り組んできたが、十分に学力の定着につながらなかった。		●	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業改善	全学年	通年	○ICT モデル校の研究として研究を進め授業改善にとりくむ ・校内研修会 月1回 ・管理職による年3回の授業観察の実施 ・授業公開及び報告会実施	○年度末到達度確認テスト ○生徒アンケート「授業は楽しい」「授業でタブレットを使用して学習を深めている」 ○保護者アンケート「子供は授業の内容が理解できている」	○年度末到達度テストの正答率各学年60%以上 ○生徒アンケート「楽しい」80%以上「学習を深めている」90%以上 ○保護者アンケート75%	○年度末到達度テスト 50.7% ○生徒アンケート「授業は楽しい」75.8%「授業でタブレットを使用して学習を深めている」 ○保護者アンケート「子供は授業の内容が理解できている」70%	○ICT モデル校として、リーディング DX スクール研究授業を年3回実施(各回3名)。他に校内研修を4回実施。また管理職による授業観察では「chromebook を活用し問題解決学習」をテーマに実施し授業改善が進んだ。 ○効果的な活用としては課題が残った教科もある。	◎

2 継続	読 解 力 の 向 上	全学年	通年	○朝読書の実施 ・週4朝10分間の読書 ○全学年図書館オリエンテーション実施 ○2学年ビブリオバトルの実施(図書館活用)	○取組状況 ○生徒アンケート「朝読書に集中して取り組み、読み取る力を深めている」	○全学年実施 ○生徒アンケート80%以上	○生徒アンケート「先生から示された課題や自分で立てた課題についてインターネットや図書館から必要な情報を集めて整理することができる」65.5%(4月54.4%)	○2学年で9月にビブリオバトルを実施した。次年度以降も学年行事として実施することで図書館利用率と読解力向上を図る。	○
3 継続	基 礎 学 力 の 定 着	全学年	通年 夏 季 休 業 日	○放課後補充教室の実施 ・5教科25分×週4回 ・区調査正答率40%未満 ・定期テストC層生徒対象 ・全校生徒でESAT-J対策等 ○5教科小テスト(コンテスト)の実施 ・国語・数学・英語を中心とした5教科 ○サマースクール(1学年通所型勉強合宿) ・全教員体制 7日間	○年度末到達度確認テスト ○ESAT-J及びYEAR1・2、GTECの結果 ○小テストの実施回数	○年度末到達度テストの正答率各学年60%以上 ○小テスト各学年5回以上実施	○年度末到達度テスト 50.7% ○小テスト(コンテスト)各学年5~10回実施 ○ESAT-Jの結果 ○中1夏季勉強合宿直後平均+13%→3ヶ月後平均-2%	○放課後補充教室は学年シフトではなく学校全体の取組として3年間を見通した計画をたてる。 ○夏季勉強合宿は事後も定期的に取り組ませた。	○
4 継続	家 庭 学 習 の 充 実	国語 数学 英語 社会 理科	通年	○家庭学習の習慣化 ・AIドリルの計画的活用 ・家庭学習ノートの提出 ・ICTモデル校による課題の提供と回収	○年度末到達度確認テスト ○生徒アンケート「宿題以外にも家庭学習をしている」 ○保護者アンケート「子供はタブレットを使って家庭学習をしている」	○年度末到達度テストの正答率各学年60%以上 ○生徒アンケート75% ○保護者アンケート60%以上	○年度末到達度テスト 50.7% ○生徒アンケート「ふだん家庭でしている勉強は宿題以外にもする」54.3%(4月49.3%) ○保護者アンケート50%	○1年生から家庭学習の習慣が身に付いていない。小学校との連携や家庭への働きかけの必要性を強く感じる。 ○家庭学習ノートやAIドリルも宿題ととらえる生徒がいる。取組に格差が見られるようになっている。	△

重点的な取組事項－２		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己に自信を持ち、将来の夢や目標に向けて努力する生徒の育成		区学力調査の意識調査 「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている」85%以上 生徒アンケート 「自分の将来に夢や希望をもっている」70%以上	○区学力調査の意識調査 「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている」83.6%	広く手本となる人や出来事に触れて、将来の夢や目標を考える機会を与えていく必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
計画的なキャリア教育の実施	・区学力調査の意識調査 「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」90%以上 ・生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」60%以上	○3年間を見通したキャリア教育の計画の作成 ○キャリア計画に基づいた各学年での教育活動の企画・運営 ・職業調べ、職場体験、上級学校調べの実施 ○「夢デザインシート」の計画的な活用	○区学力調査の意識調査 「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」86.0%（11月88.2%） ○「夢デザインシート」の活用時期を示した3年間を見通したキャリア教育の計画を作成した。 ○1年生が職業調べ、2年生で職場体験、上級学校調べを実施した。	○意識調査結果と生徒の実態には乖離を感じる。実態に応じてより多くの職業や必要とされる資質・能力について学ぶことができるキャリア教育の推進を目指す。	○
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	・区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」50%以上 ・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」65%	○発表やプレゼンテーションスキルを身に付ける活動に取り組む ○生徒朝礼の充実（発表場面の設定）	○区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」47.5% ○「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」62.6%（11月60.4%）	○各授業において講義調授業から問題解決的な学習に改善する中で話し合う、発表する場面が増えて難しさを実感する生徒が増加したと考えられる。	○
地域の力を活かした活動	・区調査「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」65%以上	○開かれた学校づくり協議会委員と全教員による3年生の面接練習の実施 ○開かれた学校づくり協議会委員等による講話	○区調査「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」62.6%（11月60.4%） ○12/17に開かれた学校づくり協議会委員の協力を得て3年生の一斉面接練習を実施した。 ○講話は3月に予定	○今後も様々な場面で外部人材等を活用していきたい。	○

地域貢献活動	関係地域で行われる行事に生徒ボランティア参加	○地域関係者との交流や地域に貢献する意欲の向上。 ・地域清掃ボランティア ・六月中ふれあいいきいきサロン	○地域清掃ボランティアやスポーツ大会、防災活動、住区センターまつり等のボランティアに参加した。	○今後も地域に役立つと共に生徒の自己肯定感の向上のために積極的に取り組ませる。	○
--------	------------------------	--	---	---	---

重点的な取組事項－３		心の教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の自尊感情・自己肯定感の向上		区調査「自分にはよいところがあると思う」65%以上 生徒・保護者アンケートによる数値の向上	区調査「自分にはよいところがあると思う」67.2%(11月72.9%)	○生徒の自己肯定感を高める取組を通年で実施することができた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校生徒への対応の充実	・保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」90%以上 ・不登校傾向生徒のSSR利用アンケート100点満点中80点以上	○修学支援委員会を年間35回以上実施 ・SSW・SCの活用 ・SSRの組織的な運営と登校支援スタッフ会議(年間3回)	○保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」92.3% ○不登校傾向生徒のSSR利用アンケート100点満点中80点 ○修学支援委員会に専門家に参加していただき活性化を図った。	○SSR利用生徒の満足度は高い。教職員の不登校対応への知識や対応方法の向上を図り、さらにSSRを活性化する。	○

学級活動の改善・充実	・生徒アンケート「信頼できる友人がいる」「先生たちは悩みや心配に耳を傾けてくれる」90%以上 ・Web-QU 調査 学校生活満足群 45%以上 学級生活不満足群 15%以下 ・自己肯定感の調査「自分には良いところがある」の数値向上 学校全体 65%以上	・年間を通じたやりとり帳の点検とコメント記入後返却 ・学級開きや席替え時の構成的グループ・エンカウターの実施 ・Web-QU 調査年間2回実施 研修会において結果の検証及び対応の検討 ・生徒会本部役員と専門委員による自治活動の活性化 ・道徳授業地区公開講座の充実	○やりとり帳のコメント記入や学級開き地頭の構成的グループ・エンカウターに加えて、年間3回のエール週間を実施した。 ○Web-QU 調査 学校生活満足群 53.0% 学級生活不満足群 17.6% ○区調査「自分にはよいところがあると思う」67.2%(11月 72.9%)	○様々な場面において生徒の自己肯定感を高める取組を実施した。 ○Web-QU の結果を活用して、さらに生徒一人一人に寄り添った対応ができるようにする。	○
いじめ防止	・いじめアンケート実施(年3回) 集計評価 ・生徒アンケート「他の人を尊重し、いじめのない生活を送っている」90%以上	○生徒会「いじめ根絶」活動の実施 ○セーフティ教室等で SNS の適切な利用について学習 ○SOS 出し方教育の実施	○年3回のいじめアンケート以外に、必要に応じてアンケートを実施し実態把握を心掛けた。 ○SNS の利用についてはセーフティ教室以外にも学習する場面を設けた。	○SNS 等で見えにくくなっているため啓発と早期発見につながる活動を進める。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】・リーディングDXスクール連携協力校として、生徒のChromebookの活用は飛躍的に進んだが、活用の仕方に教員格差が生じている。

・各教科では、同教科であっても教員によって指導法に違いが見られ学力が安定しない。

・家庭学習では、学習する生徒としない生徒の差が広がった。

【対策】・全教員で「複線型授業」の実現を目指す。一定の授業の流れの中で「指導の個別化」を図る学習を展開する。

・家庭学習として生徒一人一人に応じた課題を提供できるようにする。

イ キャリア教育の推進について

【課題】・体験活動や「夢デザインシート」の活用が学年ごとに違うことがある。

【対策】・「夢デザインシート」の活用も盛り込んだ3年間を見通したキャリア教育の計画をたてる。

ウ 心の教育について

【課題】・SSRと学年・学級の連携が不十分なときがある

【対策】・教員の不登校やSSRへの理解を深める。教育相談コーディネータと巡回教員が中心になり不登校未然防止を図る体制を整える。

（２）保護者や地域へのメッセージ

日頃よりご支援やご協力をいただき感謝申し上げます。全ての教育活動をキャリア教育の視点で進めてまいります。また ICT を有効に活用し課題を解決していくことができる力を育んでまいります。ぜひ次年度は行事と合わせて授業もご覧くださるようお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

- ・全体的には落ち着いた学校生活を送ることができている。学校行事は３年生が中心になって意欲的に取り組み、学校全体に一体感を生み出していると共に伝統として受け継がれている。
- ・上級学校調べや職場体験等を通して生徒一人一人が将来の生き方を具体的に考えられるようにする。またタブレット端末を効果的に活用した学力向上に取り組み生徒が自信をもって次のステップに歩みだせるようにしていく。